

【事例 5】

～各種補助事業を活用し放牧利用を拡大～

【岐阜県・瑞浪市】

(1) 経緯

- 瑞浪市は岐阜県の南東部に位置し、総面積175km²のうち123km²を森林が占めて丘陵地の間に狭隘な農地が点在する、典型的な中山間地域である。
- 市の農業は畜産が主で、農業産出額約72億円のうち約65億円を占めている。畜産の中心は養鶏で、酪農は減少傾向、和牛は増加傾向にある。
- 耕作放棄地への放牧の取組は、平成17年県単事業で電気牧柵等を導入して平山集落で2ヶ所(1.01ha)、北野集落で1ヶ所(0.48ha)に放牧を実施したのがきっかけ。その後、耕畜連携水田活用対策事業を活用した繁殖和牛の導入、産地づくり交付金や市単独事業による放牧地を提供する耕種農家への支援等により、平成20年には両集落で6ヶ所(6ha)に拡大している。

【放牧面積の推移】

単位：ha

放牧場所	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平山集落	1.01	2.40	2.20	2.20
北野集落	0.48	0.00	0.90	3.80
計	1.49	2.40	3.10	6.00

(2) 取組の状況

①平山集落

- 平成17年8月から10月までの間に、耕作されなくなって5年程度が経過しセイタカアワダチソウ等が繁茂した耕作放棄地1.01haに、導入した4頭を放牧して耕作できる程度に再生した。
- 農家28戸で中山間地域等直接支払制度に取り組む集落協定が組織されており、平成18年に同集落協定が繁殖和牛4頭(妊娠牛3頭約62万円、育成牛38万円)を、耕畜連携水田活用対策事業(前年度の全国子牛市場雌平均価格の1/2を定額補助(約24万5千円))と市の導入事業を活用して導入した。導入に当たっては、地元畜産農家から飼養管理などの協力を得た。
- 電気牧柵や牛の飲み水用のタンクなどの費用約20万円は、1/2補助の県単独事業を活用して導入した。電気牧柵の設置は集落の農家による共同作業で設置し、1日1回行う牛の観察等の管理は集落の畜産農家と市職員が担当している。また、既に3頭の子牛を出荷して約130万円で販売した。
- 再生した農地には、平成18年は特産野菜の「みずなみの芋」を栽培したが、平成19年からは牧草を播いて放牧し、平成20年は他の耕作放棄地を含め3ヶ所2.2haで放牧を行った。牧草栽培に当たっては、耕畜連携水田活用対策事業(1万3千円/10a)、市単独事業(5千円/10a)により、耕種農家は10a当たり1万8千円の補助を受けている。

②北野集落

- 耕種農家で作る「北野区集団転作組合」(10名)と、市内の畜産農家(6名)で組織する「瑞浪市放牧勉強会」の共同作業により、平成19年秋に耕作放棄地3ヶ所3.

5haに牧草をまき、平成20年5月より10月まで繁殖牛12頭を放牧した。

- 放牧牛は「瑞浪市放牧勉強会」の共用牛であり、電気牧柵など必要な資材は26.8万円相当の市が導入したものと個人のを併せて使用している。電気牧柵の設置等は、「北野区集団転作組合」と「瑞浪市放牧勉強会」の共同で行っている
- 牧草の播種に当たっては、平山集落と同様に、市と県が9種類の種子を購入し「北野区集団転作組合」が中心となって播種した。放牧牛の管理は「瑞浪市放牧勉強会」が行っている。

③関係機関の支援

- 農林事務所；電気牧柵の一部等消耗品購入、牧草種子の購入
- 家畜保健衛生所；血液、寄生虫及び水質検査
- 畜産研究所；飼料分析（坪刈り後）、水田の牧草地化指導
- 市；草刈り、電気牧柵設置、体重測定、妊娠鑑定、寄生虫防除及び一般管理、牧草種子の購入
- 農業協同組合；牛の輸送、移動式スタンション作成

(3) 放牧の効果

- 畜産農家は餌代1日1頭400円として、210日間の放牧で8万4千円/頭の経費節減になっている（平成19年度の市の試算）とともに、牛の管理も1日1回の見回りだけ済むので、大幅な省力になっている。
- 耕種農家は、年に2～3回/人を雇って行っていた草刈りの費用が節減されるとともに、牧草栽培により産地づくり交付金・耕畜連携水田活用対策事業の支援を受けた。



放牧中



放牧後



放牧中

